

★ 今年度の受験生諸君へ！

2次試験 お疲れさまでした。1年前の論文講習に始まり、2月のアウンサーによる面接講習、2月～3月の面接練習①、4月の教育実習向模擬授業、7月～8月の面接練習②とよく頑張っについて来てくれました。8/24・25の東京都を最後に公立学校の教員採用試験は一段落しました。ただ、山形県は2次試験が9/11なので、もうひと頑張りです。諸君の最終合格発表が楽しみです。今年は関東地区の試験日が1週間遅くなったため、4年生は教育実習から帰ってきて1次試験・2次試験前日まで直前面接練習や書類の添削指導を受けることができました。8月の相談件数 133 件のうち、メールによる対応は 115 件でした。1次試験と2次試験の間の日数が少なかったこともありますが、それだけ学生諸君が一所懸命だったということです。全員が最終合格できることを期待しています。

【毎年思うこと】教員としての資質（人間性）について

毎年この時期に思うことがあります。それは、教員としての資質についてです。教員採用試験に合格することとその人の人間性が優れていることは、残念ながら必ずしも一致しません。最近の教員採用試験は人物重視と言われていますが、短時間にその人の人間性までを見切るのはほとんど不可能です。論文添削や面接指導などを通して採用試験に合格させることはある程度実現できます。でも、人間性を高めることは自分しかできないのです。例えば、今年の東京都の集団討論に出ましたが、よく論文試験や集団討論のテーマに「思いやりの心の育成」が出されます。合格するためには論文を上手に書いたり集団討論で積極的かつ論理的に発言したりするわけですが、本当に大切なことは、受験生自身が思いやりの心を持っていることです。もしそうでないと、合格してもいい教員にはなれないのです。ほとんどの諸君は大丈夫ですが、例えば毎年、試験日までには論文添削や面接練習に熱心なのに、試験が終わると教職課程センターに全く来なくなる人がいます。復元答案はあろうか、試験報告のメールすらよこさない人の思いやりの心は、どうなっているのでしょうか。一緒に勉強を頑張った仲間感謝できているのでしょうか。教員には高い人間性が求められていることを改めて自覚してください。教員は、生徒の人生や人格を左右する重要な仕事なのであります。

★ 来年度以降の受験生諸君へ！

今年度の受験生は、みんな一所懸命に頑張りました。今度は君たちの番です。以前にも書きましたが、1次試験では論文以外は知識が勝負です。また、論文には練習が必要です。幸い、今年も受験生は全員が論文に自信をもって試験に臨んでいました。だから合否は筆記試験次第です。筆記試験は早く始めた人が勝ちます。特に、4年生になるとゼミや卒業研究、教育実習など、教員採用試験の勉強に集中できない事態が次々とやってきます。だから3年生の3月末までにある程度準備勉強を終わらせておく必要があります。論文については去る5月・6月の講習を受けた後、意欲的に添削を受けている人がいますが、その人数は少ないです。他の受講者は、どうしちゃったのでしょうか？？準備勉強が遅れば遅れるほど合格は遠のきます。都合で論文講習を受けられなかった人には、講習動画のDVDと当日の配布資料を渡しています。希望者は、教職課程センターに来てください。また、8月末～9月上旬に実施した「学習指導要領講習」と「教育法規講習」についても、講習動画DVDの貸し出しと当日資料の配布を行っています。10月に論文講習を実施する予定でしたが、DVD貸し出しをもってこれに替えます。また、これらの動画の一部は、無料のオンデマンド・コンテンツに上がっています。見たい人は、学籍課へ問い合わせてください。

《1次試験の合格者数》教職課程センター小金井相談室で指導した人数 20名中 16名合格（合格率 80.0%！）

神奈川県：中学校数学1名（卒業生） 高校数学1名（4年生） 埼玉県：中学校数学2名（卒業生2）

千葉県・千葉市：中学校数学1名（4年生） 中学校理科2名（院1卒1） さいたま市：中学校数学1名（卒1）

東京都：中高共通数学4名（4年生1・院1・卒2） 中高共通理科2名（4年生2） 特支理科1名（4年生）

山形県：中学校理科1名（卒業生）

合計：数学10名 理科6名 計16名（4年生6名 大学院2名 卒業生8名）

《今後の予定》

10月 都立武蔵中高授業見学会（予定） ★後日、参加希望者を募集します。

12/ 7（土）3・4限「教育委員会による教探説明会」 W304

12/ 14（土）3・4限「今年の合格者体験談発表会」 W304



3年生以外で参加を希望する人は、
教職課程センターで申し込んでください。

3・2・1年生 大学院生 諸君

「教員のライフステージ」

教員志望の皆さんは、ともしれば教員採用試験に合格することばかりに気持ちが行ってしまい、教員になった後の人生がどうなるのか全く知らないことが多いです。そこで今回は、教員になった後、定年退職までのライフステージについて書いてみました。教職を目指すかどうかが判断する際の参考にしてください。東京都の場合を例に挙げていますが、他県でも概ね同じです。私立学校の場合は、自分から転職や退職をしない限り、定年までその学校に勤務することが多いです。

【新規採用時】 [23歳と仮定] 4/1 入都式（辞令伝達 発令通知書受領 服務の宣誓） → 着任式（所属校）
 若手教員育成研修1年目（命令研修 1年目は初任者研修） ※1 ゴシック体は研修

【2年目～4年目】 [25～27歳] 若手教員育成研修2～3年目（命令研修 主として授業研修） ※2 下線は試験あり
 新採4年目で原則必異動（公募異動できるのは、中高一貫教育校公募のみ）

【5年目～10年目】 [28～33歳] 東京教師道場（主として授業研修 研究授業義務 2年間 募集→選抜）
 1校6年目で原則必異動（着任4年目から異動可能）

【10年目頃】 [33歳頃] 中堅教諭等資質向上研修（教員10年目の1年間 命令研修）
 東京都教育研究員（授業に関するグループ研究 1年間 募集→選抜 2月に発表会）
 主任教諭選考（30歳以上で教職8年以上 合格すると給与増額 分掌主任担当資格）

【15年目頃】 [38歳頃] 大学院派遣研修（給料をもらいながら大学院で2年間研修 修士号取得 募集→選抜）
 東京都研究開発委員（授業に関するグループ研究 1年間 募集→選抜 2月に発表会）
 東京都教員研究生（給料をもらいながら研修センター等で1年間研修 募集→選抜）
 4級職選考（34歳以上で教職10年以上 合格すると給与増額）

- ・主幹教諭：分掌主任担当義務（校務運営の中心）
- ・指導教諭：研究授業公開義務（授業の指導者）

都教育委員会の依頼を受け、各種委員会等の委員として活躍

【20年目頃】 [43歳頃] 教育行政研修（修了者は、教育管理職A選考1次試験免除）
 教育管理職A選考→教育委員会指導主事になることが多い。
 （4級職者又は主任教諭経験2年以上）

【23年目頃】 [46歳頃] 教育管理職B選考→副校長・指導主事になることが多い。
 （4級職者なら39歳以上54歳未満、主任教諭経験2年以上なら46歳以上54歳未満）

教育管理職C選考→副校長になることが多い。
 （4級職者経験3年以上で50歳以上60歳未満）

【31年目頃】 [54歳頃] 校長選考
 （副校長経験・統括指導主事経験3年以上で59歳未満）

【37年目】 [60歳] 定年退職（60歳になった年度末3月31日に退職）

- ・再任用職員（退職時の学校で勤務継続。給料は退職時の70%、仕事100%、担任可能）
- ・非常勤教員（原則異動、月16日勤務、給料月額約17万円、授業+校務分掌、年齢上限撤廃）
- ・大学非常勤講師・非常勤職員 教育委員会非常勤職員 民間企業 等

☆教員のうちは授業や部活動指導を通して生徒と触れ合い、管理職になったら生徒も教職員も守ってほしいです。

☆年々主幹教諭や管理職志望者が大幅減少しており、教育界で大きな課題になっています。働き方改革が不可欠です。

（算数コーナー）Q:分数のわり算は、何故、分子と分母をひっくり返してかけるのでしょうか。説明できますか？

$$\text{例 } \frac{2}{3} \div \frac{4}{9} = \frac{2}{3} \times \frac{9}{4}$$

Hint $a \div b = (a \times c) \div (b \times c) \quad a \div 1 = a$

★教職課程センター・小金井相談室は、全力で皆さんの合格を応援します。頑張ってください！



【私学教員についてのQ&A】

Q1:私立学校の専任教員になった後、他の私立学校への異動は可能か？

A1:可能だが、異動先でいきなり専任教諭になることはまれ。異動しても、まずは常勤講師からが多い。

Q2:私立学校教員の採用では、大学院を修了している方が有利か？

A2:学校による。理系は専門性の高さを求める私立高校が多いので、専修免許状取得の方が有利。

Q3:不景気になった時、解雇されることがあるか？

A4:企業と同様、解雇もあり得る。解雇になるのは、①非常勤講師 ②常勤講師 ③専任教員の順が多い。

★非常勤講師:授業だけを担当。

★常勤講師:正規教員とほぼ同じ仕事だが、基本的に1年契約。毎年更新。実績によって専任教諭に昇任可能。